

## 「2部2章 都道府県を調べよう」の授業案—山形県を例に—

山形県 公立中学校教諭

### 学校所在地の都道府県の学習の意味

本単元の学習は、都道府県規模の「地域的事象を見出して追求し、地域的特色をとらえさせるとともに、道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身につけさせる（学習指導要領より）」ことをおもなねらいとしている。なかでも、「学校所在地の都道府県」を扱うことに関しては、学習指導要領の解説で「身近な地域の学習との関連をはかり、学び方の基礎をより一層効果的に培うことができる」としている。具体的には以下の点を授業に活かすことが可能であろう。

- ①学校所在地の都道府県の場合は、県または、市町村レベルでの資料が入手しやすく、資料の収集方法やその活用のしかたについて学習できる。
- ②「身近な地域」学習の成果つまり学校所在地を中心とした地域の地域的特色を、全県の地域的特色の学習に活用できる。
- ③生徒は、小学校の3、4年生の郷土学習で、県について学習している。それらの学習の成果を活用できる。

以上の点に留意し、本授業案では、「山形県」を「学校所在地の都道府県」として取り上げ、次のようなねらいと単元構成を考えた。

- (1) 山形県の自然の特色や人々の生活のようすに関心を持ち、人々の工夫や努力を主体的に理解で

- きる。 【関心・意欲・態度】
- (2) 山形県の地域的特色を、さまざまな資料から考察し、地域に生きる人々の努力や願いについて、自分なりに判断することができる。 【社会的思考・判断】
  - (3) 山形県の地域的特色を、資料を収集・考察し、それをもとに絵や図表、文章で表現できる。 【資料活用能力】
  - (4) 山形県の自然の特色や人々の生活の工夫や苦勞、また地域に生きる人々の努力や願いについて理解できる。 【知識・理解】

### 「山形県」の調べ学習

本単元の授業の流れ、扱いをおもな学習活動を追いながら説明したい。

#### 1. 小学生のための

#### 「山形県」カルタをつくろう

本単元の導入部である。生徒にとって、「山形県」についての知識は、「身近な地域」の学習で調べたことがらだけでなく、生活の中で手に入れた一般的な知識や、小学校の社会科・郷土学習を中心とする小学校の学習での既得知識もある。それらの知識を整理、活用し、主体的に課題を設定する第1段階として「カルタづくり」を設定した。

#### 予想される題材

**自然**：最上川、蔵王、雪……

**食べ物**：米、さくらんぼ、果物……

**観光**：蔵王、スキー、温泉、祭り……など

小学生でも理解できるための工夫（言葉づ

かいやまとめ方)に留意させ、絵札よりも読み札を中心にカードを作成させる。

生徒は「山形県」の特色を簡単な文章にまとめることで、学習への関心を高め、それぞれが発表することで知識や情報を共有化することにつながる。



## 2. 中学生用のカルタをつくろう

次に小学生用「カルタ」をもとに、中学生用のカルタをつくることを課題とする。これが本単元の中心的課題となる。小学生の「カルタ」で取り上げた知識を、さらに深めさせるような課題を解決させることで、山形県の地域的特色をさらに深く追求させる。ただし、そのためのアプローチとして以下のような調べるポイントを示し、自分の課題を追求するためにどのポイントについて調べるのかを明らかにさせる。

1つの題材に多くとも2つ程度のポイントでよい。本単元の学習については、指導要領にも都道府県の現状(地理的特色)の理解を主としており、それらの背景や将来性、変化や因果関係などの詳細な視点からの言及はほとんどみられない。したがって、この段階では、山形県の地理的特色の背景や変化などに関連づける程度にとどめておきたい。

### 調べるポイント

- ①いつから、いつごろ、…
- ②どこで、どの地域で、…
- ③誰が、どんな人が…
- ④どんなふうに、…
- ⑤どんな変化をしてきたか、…

## 3. 調べた内容をカードにまとめよう

カルタにする前に、調べたことがらをまとめておくシート(カード)を配布し、それぞれの班で調べる項目を決めさせ、テーマに基づいて調べ活動をする。調べるポイントや方法については、教師が、生徒に適した「資料収集の方法と、調べる視点を助言する。

### 調べる方法

- ①県の紹介パンフレット
  - ②県勢要覧
  - ③小学校で使用している郷土資料
  - ④中学校の教科書、資料集、地図帳
  - ⑤山形県のHP
  - ⑥帝国書院のHP
- など

とくに、県の紹介パンフレットは大判だが、両面に地図や資料がまとめてあり各班に1枚あると便利であった。生徒は、いくつかのHPを県名調べの学習で使用しており、HPを使う調べ方にとまどいは見られない。

また、小学校の郷土学習で使用する副教材は、ほとんどの生徒が持っており、資料的にも中学生の学習に十分役立つ。中学校の社会科の授業で直接使用しなくとも、指導者として一読しておくことを薦める。



「県の紹介パンフレット」「県勢要覧」  
「小学校で使用している郷土資料」

班によっては、小学校用カルタにはなかった内容について調べようとする班もあり、自由に調べさせる。

## 調べの学習の流れの例

### A 「さくらんぼ」を取り上げた班の例

小学校の学習から

山形県はさくらんぼの生産が多い

(a) どのような変化 → ←旧版地図から

(b) どの地域で → ←市町村の

統計資料から

(a) かつての桑畑がさくらんぼ畑に・・・

(b) さくらんぼの生産は内陸の市町村に多い

「東根市」「寒河江市」などの果樹生産が多い地域の旧版地図を使い、土地利用の変化に気づかせる。市町村の統計資料を白地図に色別にあらわすことで生産の多い地域とそうでない地域があることに気づかせる。

### B 「みこし」を取り上げた班の例

身近な地域の学習から

祭りのみこしは「京みこし」が多い

(a) どのような変化 → ←県史や歴史資料から

(b) どのような変化 → ←聞き取りから

(a) 紅花商人による京文化の影響で・・・

(b) 現在は江戸みこしが増えている。

身近な地域学習で、近くの神社のみこしが「京みこし」であることを調べた班は、その理由を歴史的な資料を紹介することで明らかにさせた。さらに、それらのみこしの存続が危ぶまれている事実を、都市化、少子化によるものであることを、聞き取らせ明らかにさせた。

調べ活動に意欲を持って調べていく班ほど、新しい疑問を持ち調べていく。

## 4. カードを分類、整理しよう

各班で作成した資料カードをボードに貼りながら、ポスターセッションを行う。互いに

カードについての説明と質問を行いながら交流する。

①関係性のあるカードをまとめる。

各班から提出されたカードをテーマごとにまとめる。教科書p.58①「都道府県を調べる視点の例」の資料を参考にさせる。

項目	視点の例	
自然環境に関すること	地形	土地の高さ・低さ/大きな山や川、平野の位置/海岸線/運立地・干拓地/干潟の保全など
	気候	気温/降水量/積雪量/雪のふる期間/風のふく方向/季節によるちがひ/植物の種類/森林の役割など
人口に関すること	分布	大きな都市の位置/市街地の広がり/人口密度/人口の多いところ・少ないところ/人口の変化(増減など)/通勤・通学先など
	構成	年齢別(14歳以下、65歳以上など)の人口の割合
地域間の結びつきに関すること	交通網	鉄道、高速道路、空港の位置や変化/人やものの動きなど
	国際化	外国とのかわり/国際協力/姉妹・友好都市など
生活・文化に関すること	生活・文化	人々の生活のようす/おもな祭りや伝統行事/名産品や有名な食べ物/家のつくり/ごみ問題など
	歴史	県の歴史/おもな史跡/歴史上の人物など
資源・産業に関すること	工業	おもな工業製品/工業製品の内訳/工場や工業団地の分布/おもな出荷先や原料の仕入れ先/工場で働いている人の数/環境問題へのとり組みなど
	農業	おもな農産物/農産物の内訳や変化/田や畑、果樹園の分布/耕地や森林の面積/おもな出荷先/農家の数/農家のくふう/自然と農業のかわりなど

帝国書院「中学生の地理 初訂版」p.58

②テーマごとに班づくりをする。

## 5. それぞれの分野で「カルタ」をつくろう

各班、各テーマに基づいてカルタづくりをさせる。「山形米づくりカルタ」「山形祭りカルタ」「山形フルーツカルタ」などネーミングも含めて各班ごとカルタづくりをさせ、各分野のカルタ取りのゲームを行う。

他の班がつくったカルタを使ってゲームをするとさらに学習の幅が広がる。

## まとめと次の都道府県の学習に向けて

以上のような学習をふまえて、次の都道府県の学習にはいる。東京都や北海道などの一部の地域を除いて、生徒はほとんど地理的知識を持たないのが実情である。それだけに「学校所在地の都道府県」で学んだ①課題づくりのしかた、②アプローチのしかた、③資料・情報の収集のしかた、④まとめのしかたなどを活用させたい。